

# 令和3年度 創造調和

令和3年5月10日  
半田市立半田中学校  
第3号  
学校だより

5月1日（土）中日新聞の1面記事を見て、いろいろなことを考えさせられました。

## 学校のタブレット「家ではゲーム機」 小中学生配備端末に“抜け道”

全国の小中学生らに一人一台のタブレット端末などの配備が進む中、閲覧や使用を制限する「フィルタリング」を学校側が設定しても、子どもが抜け道や裏技を使ってゲームや動画サイトに熱中する問題が起きている。「GIGA（ギガ）スクール構想」を掲げ政府が主導した高価な学習用端末が「ゲーム機」となってしまう状況に、学校関係者や保護者は頭を悩ませている。（※ GIGAとはGlobal and Innovation Gateway for Allの略です。）

「小三の長男が毎日、家でゲームをして困っている」。岐阜市内のある母親（42）が打ち明ける。

同市の端末配備は中部地方の中で早い。昨年九月末までに公立小中学校、特別支援学校の全児童生徒らに約三万二千台を配った。一台ずつネット回線を付け、当初から家に持ち帰らせている。フィルタリングをかけ、YouTubeなどの動画サイトやブログ、有害サイトは見られない。アプリは学習用に限り各校が市教委に申請し、搭載する仕組みだ。

だが、長男は使用が認められているプログラミングアプリの中で、他の利用者が作った多数のゲームを発見。春休みは一日五時間ほど熱中した。最近では友達と情報交換し、他にもネット上のゲームを見つけては遊んでいる。大型連休で懸念はさらに増す。

母親は…（以下省略）

皆さんは、この記事を見て、どう思いましたか？

半田市でも、小学1年生から中学3年生まで、1人1台のタブレット型端末を授業等で活用し、発達段階に応じた活用が積極的に行われています。

タブレット型端末を活用した効果が、以下のように示されています。

- 画像や動画を活用した分かりやすい授業により、興味・関心を高め学習意欲が向上しました。
- 児童生徒の学習の習熟度に応じたデジタル教材を活用し、知識・理解の定着が図られました。
- 電子黒板等を用いて発表・話し合いを行うことにより、思考力や表現力が向上しました。



タブレット型端末は、学習をより分かりやすくするもの、学習意欲を高めるもの、個々の課題に合った学習（個別学習）をしやすくするもの、グループや全体で話し合いながら問題解決をする学習（協働学習）をしやすくするものとして、多額の予算をかけて導入したそうです。

学校のタブレット型端末の活用が、学習外の使われ方をしていたり、本来使ってはいけない時間帯に使われていたりするのは、とても残念な話であり、それでは学習効果が得られないと思います。

一方、小中学生によるネットトラブルが増えていることから、半田市では平成27年度、生徒会サミットにて「ネット五原則」（ネットを使う上でのこころがまえ）を定めました。



ネットトラブルに巻き込まれないようにするためには、ネットトラブルの危険性を知らるとともに、相手の気持ちを考えた言動が大切です。

**Society 5.0** 時代を生きる子どもたちにとって、教育における ICT の活用は必須です。また、変化の激しい時代を生き抜くには、従来の一斉教育だけではなく、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、個別最適化された創造性を育む教育の実現が重要です。学校のタブレット型端末を正しく使って、みんなで「進化する半田中」を実現させたいです。

※ Society5.0 とは、狩猟社会 (Society 1.0) 、農耕社会 (Society 2.0) 、工業社会 (Society 3.0) 、情報社会 (Society 4.0) に続く AI やロボットの力を借りて、人間がより快適に活力に満ちた生活を送ることができる未来社会です。